

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年12月5日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「陽の光の不思議」

<テーマ設定理由>

園庭に出るとまぶしさに目を細めたり、目元を手で覆う仕草が見られました。夏の暑い陽差しを遮るためにベランダではオーニングで日陰をつくっていますが、まぶしさと日陰ができる安心感を0歳児ながらも不思議に感じていた様子が見られました。ベランダの陽差しが秋になり弱まってきましたが、夕方にはまた眩しい西日が保育室に差し込みます。そこで、自然の光が写し出す不思議さをテーマにした活動をテーマにしました。

### 2. 活動スケジュール

4月から園庭で好きな遊びを楽しむ中で、砂に触れる遊びをしてきました。園庭に出られない日は、ベランダで過ごしました。陽射しがまぶしい時にはベランダではオーニング（可動屋根）をしています。11月くらいから、夕方の時間帯に西日や夕焼けを見て光を感じてきました。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・光を映すパネル ・保育室の窓ガラス ・パネルや窓ガラスに付けた飾り

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・強い西日を保育室の中に取り込みました。
- ・窓辺やスクリーンに映る影をじっと見つめたり、自分から近づいたり、手を伸ばして触れようとしています。
- ・光の当たり具合で形が変わることに気づき、「これは何だろう？」と確かめるような姿が見られました。
- ・床にはいはいで近づいたり、つかまり立ちで影に手を重ねたりしています。
- ・影を見つけると立ち止まったり何度も動く様子を繰り返し見たりしています。
- ・保育者はスクリーンの前に手を出したり、素材を動かしたりして、影の形や位置が変わる様子をゆっくり見せています。
- ・子どもはその動きを目で追い、「あっ」と声を出したり手を伸ばしたりしながら、大人の動きと影の動きを見ています。
- ・子どもが影に触れようとする姿を見て声をかけたり、笑顔で受けとめたりしており、「一緒におもしろいね」と気持ちを共有しました。
- ・触れようとしても触れられない不思議さに少し戸惑う様子があっても、そばで見守る大人がいることで、安心してもう一度試してみることが楽しめるようにしました。・なるべく強いコントラストや動きのある光・影ができるようにしました。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・自分や友だち、保育者の「影」に手を伸ばしたり見つめたりして、光の変化に気づき、じっくり確かめようとする。
- ・床に落ちた影を触ろうと手をついたり近づいたりする中で、はいはいや立位など、何度も行き来して体を使って遊ぶ。
- ・白いスクリーンや窓に貼ったカラフルな素材が、模様影として映っていて、「形が変わる・大きさが変わる」ということが不思議な様子。
- ・写っているのに（形がそこにあるのに）、その物に触れられないことを確かめながら分かっていく過程が「あれー？」「おー！」等の言葉や表情から伝わってくる。
- ・いつも遊んでいる場所で、なぜそこに影があるのかは分からなくても、何かがあるということに気づいて触れようとしている。
- ・眩しい夕方の陽差しの中で、スクリーンに映る影に手を伸ばしている。
- ・窓から差し込む光で床にできた影を見つけ、何度も近づいたり離れたりして楽しんでいる。
- ・保育者が動かす形の影がゆらゆら動くと、じっと目で追い、にこっと笑う姿があった。



### 5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・陽の当たる場所・日陰・スクリーンに映る影など、場所によって見え方が変わることによって触れることで、その不思議さに気づいて、探究活動が芽生えています。
- ・子どもの「まぶしい」「日陰はまぶしくない」といった身体反応を、単なる環境調整ではなく、活動テーマへつなげられた点良かったのではないかと感じています。
- ・1日の光の変化（夏の直射日光・秋の柔らかい光・夕方の西日）を観察し体験し続けてきたからこそ、その経験を学びに生かし、探究活動へとつなげていることが素晴らしいと思います。
- ・保育室・ベランダの環境構成に生かしていることから、「生活と遊びをつなげて計画する視点」が育っていると振り返ることができます。生活と遊びが一体となった学びになっていると思います。
- ・まぶしさに目を細めたり手で覆ったりする経験から、「光の強さ」「影の有無」を体で感じ取り、自分なりの心地よさを探る感覚が育っています。
- ・保育者と一緒に光や影を眺め、指さしや声かけを交わすことを通して、「不思議さを共有する喜び」や、「安心できる大人と一緒に新しいことも試してみる」という情緒の安定・信頼関係も深まっています。
- ・日常の「まぶしい」という小さな違和感から出発し、「光ってなんだろう」「影はどうしてできるのだろう」といった問いに、体験を通して近づいていく学びの芽生えと探究のプロセスになっています。
- ・ベランダや保育室の光の変化を継続的に取り上げることで、「繰り返し確かめる」「前に見たことと結びつける」といった、0歳児なりの継続的な探究の土台づくりにつながっていると思います。
- ・今後は、保育者側が「子どもが何に一番反応しているか（眩しさ・影の形・動きなど）」を記録し、次の活動（影絵、色付き素材、懐中電灯など）にどうつなげるかを考えることで、「子どもの問いを起点にした探究カリキュラム」として深めていきたいと思っています。